

北農工 第60回総会を開催

生産性向上に
寄与する 農機製造を（細倉会長）

昨年実績 192億7300万円（8%減）

（一社）北海道農業機械工業会は29日、第60回通常総会並びに表彰式、特別講演会及び受賞祝賀会を札幌全日空ホテルで開催した。



挨拶する細倉会長

総会では冒頭、細倉雄二会長（㈱IHIスター代表取締役社長）が挨拶し「震災復興の前進と反比例して、道向け関連予算は縮小した他、生産資材の高騰や調達、加えて夏場の7%の節電要請も

あり厳しい環境にある。出荷実績が200億円を遂に下回り全国ベースより落込んだことから、製造原価の低減や新商品開発、販売力の強化、グローバル視点での販路開拓による販売数量の安定確保が課題である。今後も道庁が掲げる農水産業の基盤強化や付加価値の高

い製品づくり、フードコングレックス国際戦略総合特区、道産品をアジアに売込み成長の取込の一助となるべく、農産物品質や農業生産性の向上に寄与する農機の製造・技術開発、適正な販売を使命にこれまで以上に尽力

て、来場者数4400人、企業・研究機関など39カ国、184件の価格問合わせや実演依頼等があったことや、2011台湾農業機械資材展の出展結果を報告。今年度は2012JAPANブランド事業が2年目事業として北海道経済局から採択された旨や北海道経済産業局が事業主体の国際経済産業文化交流事業に参画し、台湾からの招請と派遣の実施、10月5～9日に羅州市で開催される2012農業国際展覧会にエフ・イー、石村鉄工、イシ

研センター前理事の行本修氏が「農業機械化展望と生研センターにおける開発研究」と題し農研機構の紹介や日本における機械化の成果、生研センターの開発機について力弁を奮いつつ講演した。

その後の受賞祝賀会は土屋今次副会長の冒頭で乾杯が行われ、和やかな雰囲気では終了した。



オサダ農機(株)・長田社長



国際農機(株)・松本社長

また農機のPL法に基づき、来場者数4400人、企業・研究機関など39カ国、184件の価格問合わせや実演依頼等があった旨も報告された。

【平成24年度表彰式】第29回優良農業機械・施設等開発改良表彰知事賞並びに会長賞に、オサダ農機(株)のタイコンハーベストDS1J、DS10V、GRH430と、(株)キョウホーのタマネギ除草カルチ「新玉除草カルチ」HS2-4が選ばれ表彰された。また永年継続会員感謝状が、30年継続会員の国際農機(株)、20年継続会員の(株)石村鉄工、東北道いすゞ自動車(株)、北海道糖業(株)本別製糖所に贈呈。そして従業員功労表彰として、(株)IHIスターの伊藤修

氏、島津真司氏、玉森幸雄氏、オサダ農機(株)の梶原昭二氏、サンエイ工業(株)の武田剛氏、南出直樹氏、スガノ農機(株)の本田久美子氏、東洋農機(株)の伊東和幸氏、高田陽平氏、長野孝志氏、北海道二プロの相馬透氏、本田農機工業の本田吉一氏が表彰された。

農機新聞 (6月5日)

北 農 工 総会と表彰式開く

会長賞、知事賞を表彰



挨拶する細倉会長

一般社団法人北海道農業機械工業会（細倉雄二会長）は5月29日午後、札幌市内の札幌全日空ホテルで、「第60回通常総会」などを開催した。

細倉会長は国内外の経済状況に触れた後に、「北海道の農業界が厳しくなる状況下、製造原価の削減、グローバル視点での販売台数の確保などが課題としてあるが、北海道では道の強みを活かした食品産業立国の推進に力を入れているため、未来を見据えて、農業・農機化農業技術の啓蒙・普及並びに農業機械の情報提供の優良な農業機械の普及並びに技術開発力の高度化の支援③農業政策、

力強く話した。総会では、細倉会長を議長に議事に入り、23年度事業報告・収支決算、24年度事業計画・収支予算などを審議、いずれも事務局原案通り可決した。

平成24年度事業計画の主要実施事項は、①機械化農業技術の啓蒙・普及並びに農業機械の情報提供の優良な農業機械の普及並びに技術開発力の高度化の支援③農業政策、技術開発並びに農業機械の需要動向等に関する調査及び資料の発行④農業機械の市場拡大の支援⑤農業界の基盤強化。

次に、24年度表彰式に移り、「第29回優良農業機械・施設等開発改良表彰 会長賞」と「同知事賞」は、オサダ農機㈱（長田秀治代表取締役社長）の「ダイコンハーベスタ」と、㈱キユウホー（永井博道代表取締役）の「タマネギ除草カルチ



ら表彰を受ける長田秀治氏（右）

が表彰された。「永年継続会員感謝状贈呈」は、30年として国際農機㈱（松本孝美代表取締役社長）が、20年と機械化の歴史や開発したとして㈱石村鉄工（石村聡

英代表取締役）らが受け、従業員功労表彰では12人が表彰された。続いて特別講演会では、農研機構の前機械化促進担当理事の行本修氏が、「農業機械化」展望と生研センターにおける研究開発」を演題に話し、機械化の歴史や開発した機械などに触れた。

農経しんぼう（6月4日）

未来を見据えた開発を

健全な発展に寄与

開発改良などで表彰

北農工総会



細倉会長

北海道農業機械工業会第60回通常総会、表彰式、特別講演会が5月29日、札幌市内の札幌全日空ホテルで開催された。その中で24年度事業計画の主要実施事項5項目などを承認。細倉会長は「本年度も新機種の開発や流通の正常化を推進しながら、関係機関や団体と連携を図り、未来を見据えた農業機械や技術の健全な発展に寄与していく」と挨拶した。

議事は2件の報告事項と8件の審議事項を中心に行われ、特に審議事項の中で、24年度事業計画の主要実施事項として①機械化農業技術の啓蒙・普及並びに農業機械の情

報提供②優良な農業機械の普及並びに技術開発努力の高度化の支援③農業政策・技術開発並びに農業機械の需給動向等に関する調査及び資料の発行④農業機械の市場拡大の支

労表彰では、IHイスター伊藤修氏など7社12名が表彰された。特別講演会には、(株)農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術支援センター・前機械化促進担当理事の行本修氏による「農業機械化」展望と生研センターにおける「開発研究」の演題で講演。

①農研機構の機械研究と同規模の農業経営が展開するEU圏における市場獲得に向けた販路開拓を展開する。同プロジェクトでは、農業機械展(A2011)への出展を足がかりに、3兆円の市場規模を有するEUの農機市場に参入するため、EUでの商談会や技術セミナーの開催やディーラー等の関係者の招聘、韓国における国際農業博覧会への出展等を行い、EUや東アジア圏への販売

の歴史と成果、課題③生研センターの農業機械開発成果④機械化の展望などが論じられ、開発成果として高精度高速施肥機や小型汎用コンバイン、高機能高所作業台車、棚用低ドリフトSS、イチゴ収穫ロボット、たまねぎ調整装置などが紹介された。

各種表彰者名
平成24年度表彰の受賞者は次の通り。敬称略。

【第29回優良農業機械・施設等開発改良表彰会会長賞】▽オサダ農機・長田秀治 機械名「ダイコンハーベスタ」▽キユーホー・永井博道・機械名「タマネギ除草カルチ

賞】会長賞表彰と同じ【永年継続会員感謝状贈呈】▽国際農機(30年、代表取締役社長・松本孝美)▽石村鉄工(20年、代表取締役・石村聡英)▽東北北海道いすゞ自動車(20年、代表取締役社長・高薄健)▽北海道糖業サタ農機▽武田剛(サ

本別製糖所・上席執行役員本別製糖所長・菊地哲郎)【従業員功勞表彰】▽伊藤修(「IHイスター」)▽藤修(「IHイスター」)▽島津真司(同)▽玉森幸透(北海道ニプロ)▽本田吉一(本田農機工業)

JAPANブランド

挨拶する細倉会長

北農工が申請していた。24年5月末時点で中小企業庁のJAPANの支援プロジェクトの累計は272件にのぼっている。同庁では今年度は「北海道の優れた畑・野菜用農業機械のヨーロッパ市場開拓プロジェクト」(ブランド確立支援事業2年目)が採択された。

中小企業庁のJAPANNブランド支援事業の支援内容は、地域の産品や技術の魅力を更に高め、世界に通用するブランド

は、新潟県の燕三条ブランドプロジェクト、愛知県のおしめん・でら・パスタ計画など12件。今回採択されたプロジェクトの概要は、北海道

農村ニュース (6月4日)